

# 教職センターだより

先輩から学ぶ—1年生対象講座を実施—



子ども教育学科の1年生を対象に講座を行う機会をいただきました。教職センターの教員が教員採用について話したり、3年生や4年生の学生に学業や試験対策への取り組みについて話してもらったりする良い機会となりました。学生の感想をまとめると、次のような特徴が見られましたのでご紹介します。

## 1 不安の軽減と教職への意欲向上

最も多く見られたのは、「不安が軽減された」という感想です。「不安を少なくすることができた」「不安が、楽しいかも！に変わった」などの記述が多数見られました。学生は、教職への期待と同時に不安を抱えているようです。現役の先輩も「自分たちと同じように悩みながら成長してきた」ということを知り、不安の軽減と自己効力感の向上につながりキャリア形成上、極めて意義深い成果があったと考えます。

## 2 ロールモデルとしての先輩の存在感

「先輩のようになりたい」「もう完全に先生だった」「大きな夢をもって自分もそうになりたい」など、先輩を将来像として捉える記述が多く見られました。先輩が学生にとっての具体的なロールモデルとなっていることが分かり、教員養成において身近な先輩の姿は、教職への動機づけを高めることがわかりました。

## 3 幼児教育における教材・教具への関心

自己紹介カードやスケッチブック、エプロンシアターなどへの感想が非常に多く見られました。「動く仕掛け」「キラキラした素材」「子どもの興味・関心を引く工夫」「自分も作ってみたい」など、教材研究への関心が高まっていました。実物教材を提示



したことにより、学生は幼児教育・保育における教材の重要性を実感できたと考えられます。また、「自分ならどう工夫するか」という主体的な学びにもつながっていました。模擬授業は、教員として必要な資質・能力を具体的にイメージさせる効果が高く「教えることの専門性」への理解を深める機会となりました。

## 4 教職センター利用への動機づけ

感想には、「教職センターに行きます」「利用することが大切だと思った」「今やるべきことが分かった」という記述が見られました。座談会では、先輩が失敗した経験や悩んだことなどを具体的に聞いたことで、参加学生の教職への不安を軽減し、将来像を具体化するとともに、学習意欲や教職への志を高める極めて効果的なキャリア形成支援の機会となったと考えられます。

## 教員採用試験1次試験 開始

全国的に教員採用試験の早期化・複線化が進んでいます。本学では、長野県や山梨県の受験を皮切りに、7月5日には神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、東京都の一次試験に臨みます。受験する学生には、これまで教職センターの講座で培ってきた力を十分に発揮してほしいと願っています。